



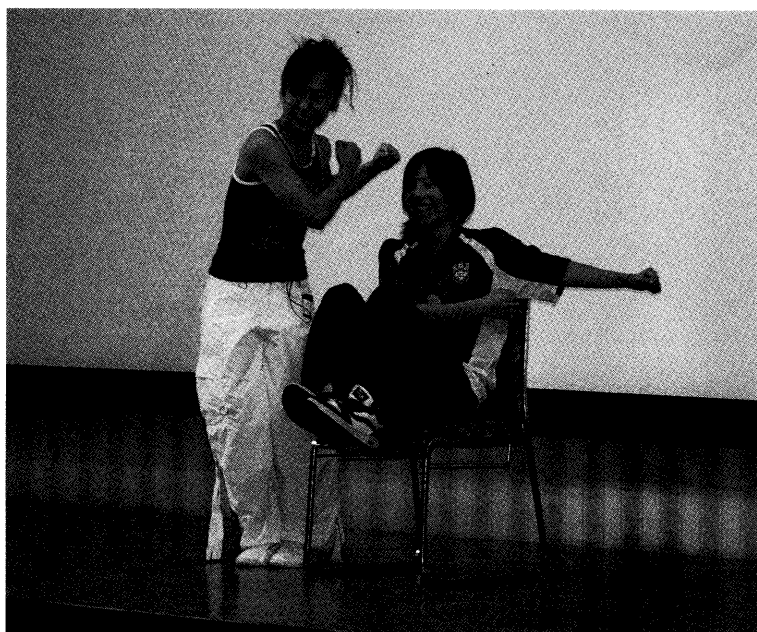
SUPPORTERS

サポーターズ

No.124 2009冬号

士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 559名 施設数 92 (12月3日現在)



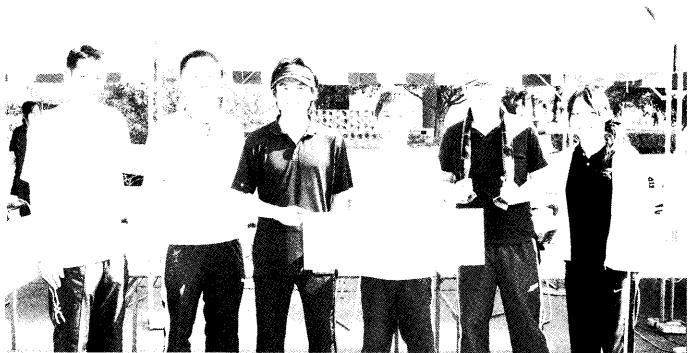
▲ 公開講座 林田はるみ先生による効率的な運動の紹介



▲ 公開講座 各種測定機器の体験・食品の展示



▲ 第2回学術研修会 1日目



▲ いきいき山梨ねりんピック2009



▲ 第2回学術研修会 2日目

Contents

第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会
in 山梨開催に向けて… 2

各部活動報告… 3～6

お知らせ… 6

会員のひろば

『第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会』を終えて… 7

第10048回理学療法士講習会
『成人片麻痺者の評価と治療』に参加して… 8

リレーエッセイ Part6… 9～10

原稿募集… 10

事務管理局より 変更手続きについて… 11

編集後記… 11

「supporters(サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters: 支える人たち(造語)の意味です。

第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会

in 山梨開催に向けて

準備委員長 磯野 賢

全国学術研修大会 in 山梨は、平成23年10月6、7日に開催されます。開催まであと2年となりました。もう2年しかと思われる方もいらっしゃるかと思いますが、まだ2年も先かと思われる方がほとんどだと思います。

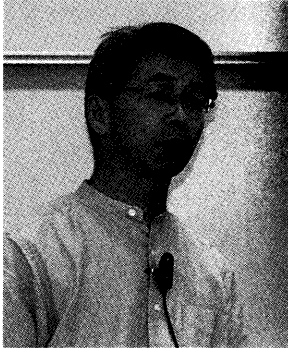
研修大会開催が決定したのは、今からちょうど2年前です。県士会の中の組織として活動が始まったのは、それよりもっと前の話で、その頃から開催地立候補に向けて準備を進めてきました。当初から「会場はどうする」「プログラムはどうする」「やるのはいいが人が来るか」などと議論を重ねてきたわけですが、大きな箱物のない山梨では会場の確保が最大の課題でした。その中で富士屋ホテル・常磐ホテルの2会場で行なう案に決まりました。また、テーマは自分たちの足元を今一度見つめ直し、その中で役割を明確にし、若い方たちの指針となるようなものにしたということで「原点回帰」「再考・今、私たちに何が求められているか」になりました。このような中で、企画では出来るだけ山梨らしさのあるものにしていきたいと思っています。“山梨らしさ”とはという話になると、富士山、武田信玄、フルーツということにはなるかと思いますが、違った意味で山梨(研修大会)に来て良かったと感じていただけるようなものがないかと頭を悩ませています。是非、会員の皆さんからももっとこんな企画やプログラムがあれば参加したくなるといった意見を頂きたいと思っています。

現在、準備委員会では3ヶ月に一度程度、会議を開いて予算や広報、運営面での情報を収集しながら企画を組み立てている所です。また、他県で開催される全研にも視察に行かせていただき、広報活動をするとともに開催までにかかわった方から直接情報をいただいたり、協会の方からもアドバイスを頂いています。さらに、来年度からは本格的な広報活動に向けてパンフレットの準備もしています。今後、これまでの情報をもとに再度予算を組み、タイムスケジュールを作成し進めて行きたいと考えています。また、県士会のホームページの中に全研のコーナーを入れていただきました。その中で活動報告や進捗状況など情報を発信していきたいと思いますのでご覧ください。

山梨は大きな規模の大会は開催できませんが、小林大会長が良く言われている「身の丈にあったもの」でいきたいと思っています。現在のところ準備委員会はわずかな人数で活動しておりますが、皆様のご協力なしにはとても開催できるものではありません。時は刻々と開催にせまっています。是非会員皆様のご協力のほどよろしく願いいたします。

各部 活動報告

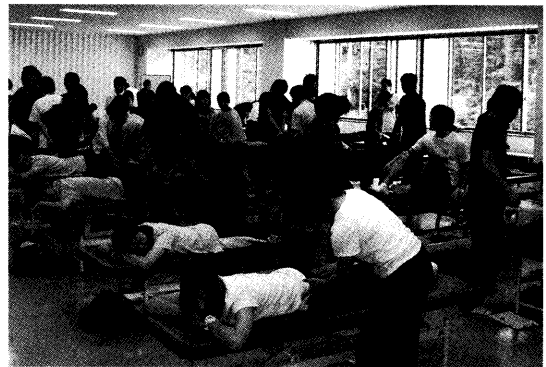
学術局発 平成21年『第2回学術研修会』報告



平成21年度、第2回学術研修会が9月5、6日で開催されました。千里リハビリテーション病院の吉尾雅春先生を講師に、「解剖学的視点からみた理学療法の基礎編・応用編」をテーマとして学習させていただきました。

1日目はホテルクラウンパレス甲府にて講義中心に行なわれ、120名の参加がありました。講義の内容としては、「今更、なぜ解剖学なのか？」から始まり、関節の構造と働き、筋肉の走行と作用を確認しました。そこから、「何が問題なのか？」を論理的に考え、結論づけることの大切さを学ばせていただきました。

2日目は数年ぶりの試みとして、健康科学大学にて実技を中心に行なわれました。開催場所が遠く、朝早くからの学習会でしたが、109名の参加者がありました。内容としては基礎的解剖学の知識や、応用編として実技を中心に行なわれました。実技を行なう中で「何が問題なのか？」を知ることがアプローチを行なっていく過程ではとても重要で、その問題が解剖学的問題なのか、臨床的問題なのかに着目して教えていただきました。今回の研修会では、制限のある動作に対してただアプローチするのではなく、実際は「何が問題なのか？」という、問題点を追究する意識の大切さを学ばせていただきました。



●問い合わせ先：学術局学術研修部 名取

(甲府共立病院リハビリテーション科内 TEL 055-226-3131)

巨摩共立病院 和田 匠

社会局発 「いきいき山梨ねんりんピック2009」



高齢者の生きがいや健康づくりのため、趣味やスポーツを通じて交流することを目的とする「いきいき山梨ねんりんピック2009」が、晴天に恵まれた9月29日(土)、小瀬スポーツ公園をメイン会場として開催されました。今年で17回目となるこの大会には、約4300人の高齢者が参加し、会場には約1万5千人が集まりました。

山梨県理学療法士会は、平成9年より参加し、リハビリテーションに関する理学療法(士)の各種相談への対応、またパネル展示・パンフレット配布による啓発活動を行ってきました。

今年は、広報部、地域連携部、委託事業部から6名の先生方に協力を頂き、約500部のパンフレット配布と20数件の相談を受けました。この部の活動を通して参加者の健康増進への関心の高さを感じ、この分野にも対応していく必要性を考えさせられました。

●問い合わせ先：社会局委託事業部 小林

(山梨県立あけぼの医療福祉センター療法科内 TEL 0551-22-6112)

委託事業部 古屋 伴仁 (韮崎市立病院)



平成21年度山梨県理学療法士会主催の公開講座が11月15日(日)、健康科学大学から、石黒友康先生、林田はるみ先生をお招きしホテルクラウンパレス甲府で開催されました。石黒先生の講義では「メタボリックシンドロームを考える」をテーマに、定義や本当に肥満は良くないのかなど、メタボリックシンドロームについて、もう一度科学的に考え直す機会を与えていただきました。林田先生の運動の紹介では、誰にでも簡単にできる効率的な運動を楽しく紹介して頂きました。また、今回は企業の協力により、各種測定機器の体験、食品の展示も実施しました。参加者120名と、盛大な公開講座となりました。多くの県士会員の皆様にも参加して頂きました。皆様のご協力に対し、感謝申し上げます。

公開講座部 井村 順一



●問い合わせ先：企画局公開講座部 井村

(恵信甲府病院リハビリテーション室内 TEL 055-223-7333)

今年度で4回目となる医療・介護保険部合同勉強会「診療・介護報酬に関する基礎的勉強会」が10月22日、29日に開催されました。対象は例年通りに新人理学療法士でしたが、今回は国中地域(山梨県青少年センター)と郡内地域(大月市勤労青年センター)の2会場を設定し、合わせて52名という多数の参加がありました。

医療保険では、リハビリテーション関連だけではなく医療従事者として知っておくべき医療保険の基礎知識も含めた内容としたことで、勉強会を通して医療保険の制度・現状を知る良い機会になったのではないかと思います。また、介護保険では介護保険下で業務についている新人が少ないこと、昨年までのアンケートにおいて“介護保険についてはほとんど知識がない”という意見が多いことから、介護保険制度の基本を中心に講義を行ないました。

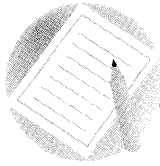
新人対象のアンケート調査では、大多数の新人が診療・介護報酬に関して興味を持っているという結果の一方で、算定できる報酬を理解できていないという回答も多くみられました。また、理学療法における医療と介護の違いについては、“医療は機能の向上、介護は維持”という認識が強いようです。

来年度には診療報酬の改定があります。新人の方は今回の勉強会で得た基礎知識を活用しながら、今後も自分の業務に関わる制度・報酬に興味を持ち、病院や施設の中での一人の“理学療法士”としてだけでなく、社会の中の“理学療法士”という視点で専門職としてのあり方について考えていただければ幸いです。医療・介護保険部としても、常に新しい情報を提供できるよう鋭意努力していきます。

介護保険部 河野 裕一

●問い合わせ先：福祉厚生局介護保険部 河野

(市川三郷町立病院リハビリテーション科内 TEL 055-272-3000)



施設状況実態調査報告

山梨県理学療法士会が所属する施設に対し、施設状況実態調査を行なったので報告いたします。

県内 102 施設に調査を依頼し、99 施設（97%）の御回答を頂きました。御協力頂きありがとうございました。

医療保険について

1) 疾患別施設基準の施設数

	I	II	III
脳血管等リハ	20	13	12
運動器リハ	50	3	
呼吸器リハ	21	2	
心大血管リハ	1	0	

2) 病棟種別の施設数

	施設数
回復期リハ病棟	9
医療療養病棟	25
障害者病棟	5
亜急性期入院医療管理病棟	1

3) 外来リハの実施状況

	実施（検討できるを含む）
選定療養	10
障害児（者）リハ	19

介護保険について

1) 入所サービス等の実態

	定員及び床			計
	1～50	51～100	101～150	
介護老人保健施設	0	17	1	18
介護老人福祉施設	1	0	0	1
介護保険療養病棟	3	2	0	5

2) 居宅サービスの実態

	定 員				計
	1～20	21～40	41～60	61～80	
通所リハ	16	13	2	0	31
通所介護	3	1	0	1	5
訪問看護ステーション					10

* 通所リハ 27 施設の内、短時間通所リハを行なっている施設 7

	介護保険のみ	医療保険のみ	介護・医療保険とも	計
訪問リハを行っている施設	12	1	19	32

* 訪問看護ステーションから行なっているものを含む

今回の調査は、経時的なものではないため調査した時点での実態となります。理学療法士の所属する各施設の状況を把握することにより、県民が希望する理学療法の利便性向上と円滑な県土会活動に役立てられる様にしたいと思います。今後とも御協力をよろしくお願い致します。

医療・介護保険部



平成21年10月27日、甲州リハビリテーショングループ大木記念ホールにて、健康科学大学福祉心理学科教授 入江多津子先生をお招きし「患者の心理とその対応」というテーマで研修会を行いました。参加者は113名と多くの皆様にご参加頂きました。

今回の研修会では、「患者の心理とは」、「相手(患者)を理解するとは」、「家族にとって患者とは」などの内容で、私たちが日常業務の中で常に必要となる内容の講義をして頂けたので、自分自身の日常業務を振り返る良いきっかけとなったと思います。また、コミュニケーション技術についても講義の中で触れていただき、患者様や御家族とのコミュニケーションのとり方に関しても学ぶことができました。講義内容がとてもわかりやすく、充実した研修会になったと思います。研修会にご参加頂いた皆様の日常業務の参考となれば幸いです。

企画研修部 大西正紀

●問い合わせ先：企画局企画研修部 大西

(甲州リハビリテーション病院理学療法科内 TEL 055-262-3121)

お知らせ

第3回学術研修会

- 日時：平成22年1月17日(日) ●受付：9:00～ ●講義：9:30～15:00
- 会場：石和スコレーセンター
- 講師：森岡 周 先生(畿央大学 健康科学部 理学療法科)
- テーマ：「リハビリテーションのための脳・神経科学～最近のトピックス～」

第4回学術研修会

- 日時：平成22年3月21日(日) ●受付：9:00～
- 講義：9:30～14:30 1コマ目 9:30～10:40 2コマ目 10:50～12:00
3コマ目 13:00～14:30 質疑応答 14:10～14:30
- 会場：未定
- 講師：松永 篤彦 先生(北里大学 医療衛生学部)
- テーマ：1コマ目 「虚血性心疾患に対する理学療法 1～リスク評価の実際～」
2コマ目 「虚血性心疾患に対する理学療法 2～運動療法の実際～」
3コマ目 「心不全に対する理学療法の位置づけと実際」

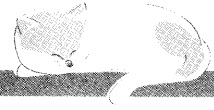
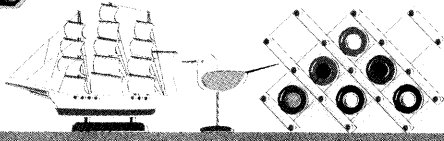
地域連携部 〈地域理学療法研修会〉

- 日時：平成22年2月19日(金) ●講義：18:45～
- 会場：未定
- 講師：長田 忠孝 先生(飯富病院)
- テーマ：「地域医療の現状と課題～リハビリテーションに求めるもの～」



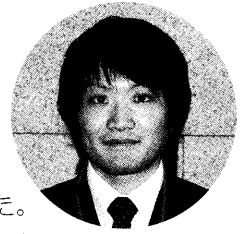
会員のひろば

〈会員の声を紹介するコーナーです〉



Report 『第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会』を終えて

健康科学大学 深澤 雄 希



はじめまして健康科学大学の深澤です。

今回、9月12、13日の二日間にわたり、群馬県で開催された第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会にて、ポスター発表を行ってきました。ポスター発表ということで、直前に座長の先生の指示があるまで正確な発表の形式や持ち時間がわかりませんでした。そのため、しっかりとした発表の準備を行なうことが出来ず、発表直前の緊張に繋がりました。実際の発表は、持ち時間5分でポスターを見ながら研究の説明を行ないました。聴いてくださる方々に自分がこれまでに行ってきた研究の内容を伝えることの難しさを改めて実感しました。

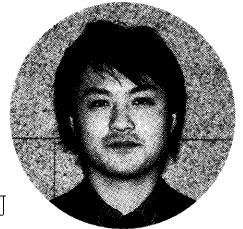
今回の研究は2年前から少しずつ調査を行ってきた結果を発表しました。研究は計画を組み立てるところで一番苦労しました。研究方法はパイロットスタディで何度も検討して、ようやく調査を開始することが出来ました。調査は職場の先生や医師など他職種の先生方にも協力して頂きながら進めていきました。

発表と学会全体を通して感じたことは、理学療法士にとって研究は特別なモノとして存在しているのではなく、日々の臨床の中で常に隣り合って存在しているということです。臨床の中で感じる些細な疑問や、患者さん一人ひとりの症状によって仮説を立ててアプローチしていくこと、すべて研究と繋がっていることを感じました。

今後も今回の発表の反省をもとに、研究に対する積極的な姿勢を忘れることなく日々の臨床に活かしていきたいと思います。最後に、今回の研究にご協力くださいました対象者の皆様、アドバイスをいただいた先生方へ心より御礼申し上げます。

『第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会』を終えて

甲州リハビリテーション病院 船久保 和 也



今回、9月12、13日の二日間にわたり、群馬県民会館で開催された第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会に参加しました。一日目の10:00から口述発表が始まり、私の発表は11:00からのセッションでした。正直、前の人の発表は聞いていましたが、全然覚えていないほど緊張していました。発表が始まると、夢中で原稿を読みましたが、何度かつかえる場面があり、また早口になってしまいました。

研究の準備は、約一年前から研究チームと職場の皆様にご協力してもらいながら進めてきました。何度も話し合いを重ねながら、研究の『目的』や『方法』を決めていきました。データ収集も、プレ実験から実施しましたが、予想以上に手間と時間がかかることに気がつき、何度もデータを取り直しました。やっと、データが集まったと思ったら『統計』です。統計の教科書を3年ぶりぐらいにひっくり返しなが、先輩のアドバイスを参考に実施することができました。さらに、結果がでたら『考察』です。先行研究などを参考に考えをまとめていきました。このとき、普段から文献などを見ることで、新たな知見を吸収することができると感じ、今後も続けていきたいと思いました。『抄録』作成のときには、職場の研究チームで話し合いをし、科内でも予行演習をして頂きましたが、これが一番緊張したかもしれません。

今回の発表は、職場の皆様の協力により成し遂げられ、自分にとって大きな経験になりました。職場の皆様には、とても感謝しています。研究を通して、新たな知見を吸収できたことや、大舞台上で発表した経験を大切にしながら、今後もがんばっていききたいと思います。でも、とりあえず今は一安心しています。

第10048回理学療法士講習会 『成人片麻痺者の評価と治療』に参加して

石和共立病院 志村佳子

10月16日～18日の3日間、山梨リハビリテーション病院にて開催された『成人片麻痺者の評価と治療』へ参加させて頂きました。

青森から鹿児島と全国から、急性期～回復期、施設、在宅と様々な職場で経験されている方々、30名の参加がありました。

3日間の内容は、講義の後に実技という流れであったので、講義を復習しながら実技に取り組むことが出来ました。初日は緊張もあり、参加者も自分も固い雰囲気でしたが、2日目は開始前から前日の復習を行ったり、実技を通してのディスカッションや質問も活発になってきた印象でした。

講義では神経科学やエビデンスに基づいた事を中心に、臨床場面や先生方の経験を踏まえ、解りやすく、具体的な内容をお話して下さいました。その中で、関わり方一つとっても、患者様の反応に影響しており、代償パターンやプッシャーを助長してしまっていることもあることに気付かされました。また、人は環境や状況に応じて身体を変化させ対応しており、その身体の変化に応じて脳も変化している。私達セラピストの接し方、治療一つで身体や脳にまで影響している事を学びました。患者様の起きている現象を捉え、アプローチや接し方が患者様にどのような影響を及ぼし、今後はどう影響していくのか、理解を深めるために、神経科学を学ぶ重要性を感じました。

実技では、伊藤先生・高村先生・北山先生以外にもグループごとにアドバイザーの先生方がいらっしやっただので、質問しやすく丁寧に指導して頂きました。患者様の状況を感じ取ること、無理矢理動かさず、待つこと……まずは健常者で練習して、患者様に活かせればと思います。

2日目には伊藤先生のデモンストレーションを見学させて頂く事が出来、なかなか出来ない経験でした。短時間の中で説明して頂きながら、実際に目の前で治療をされ、患者様の変化を見せられ驚愕でした。勉強にもなりましたし、やはり結果を出して行かなくてはと、改めて反省しました。

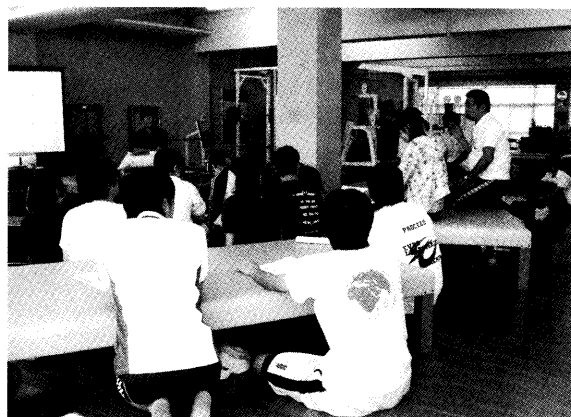
また、2日目の夜には懇親会では楽しい余興もあり、大変盛り上がりました。いろいろな職場で働いている参加者同士の情報交換の場ともなり、話題が尽きないようでした。

懇親会でさらにうち解けられた雰囲気、最終日の3日目は講義や実技でも笑いや質問が絶えず、内容の濃い1日でした。さらにワークショップもあり、まさに講習会の集大成としてグループでディスカッション出来たのではないかと思います。

3日間で患者様に対する考え方、接し方、治療の際に大事にすること、運動方法の学習やHow toではなく、個人に合わせた身体の使い方が必要であることを教えて頂きました。充実した3日間でした。患者様と共感出来るよう、寄り添い変化を感じ取っていききたいと思います。

患者様をどうにかしたいとあきらめず、そのために、自分がすべき事……として、この3日間で学んだ事を今後復習しながら、知識を深め、広げていきたいと思っています。

最後に、講師の伊藤先生・高村先生・北山先生、ほかアドバイザーの先生方、設営・準備していただいたアシスタントの先生方、3日間ありがとうございました。



リレーエッセイ ～途絶えることのない バトンを君に～

『リレーエッセイ』とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい(ただし、誹謗や中傷の内容は除外します)ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

今までの Supporters にあった「会員のひろば」と違い、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

Part6⁻¹

帝京科学大学 千葉 絵里子 先生

住み慣れた北海道を離れてはや3年目。中央線乗り継ぎ約2時間の通勤もかなり板についてきた今日この頃です。3年目を迎え、3年次の評価実習、4年次の臨床実習とまずは1期生の無事なる卒業を目指し、四苦八苦しているところです。

さて、今回は私の第二の故郷、札幌名物のスープカレーについてお話ししたいと思います。グルメ番組などでもかなり取り上げられ、もうブームは去った感もありますが、今回はご家庭でも簡単にできる作り方をご紹介します。

まずはベース作り。通常のカレーと同様の作り方でじゃがいも、にんじん、鶏肉などを煮込みます。この時、野菜、肉ともいつもよりも大きめに切るのがコツです。ここに市販のルーを入れていきますが、あくまでも少なめ、サラサラする程度にとどめて下さい。これでベースは完成です。市販のルーを使うことで、簡単に本格的な味に近づきます。

次に別な鍋またはフライパンでなす、ピーマン、オクラなど(トマトもおススメ)を炒め揚げ、ここに先ほどのベースを加えます。最後にクミン、コリアンダー、カルダモンなどの「適当な」スパイスを「適当に」加え、チリパウダーでお好みの辛さに仕上げます。ご飯、スープを別々の器に盛りつけば、野



菜ごろごろ、彩りも鮮やかなスープカレーの完成です。野菜や肉はいろいろ変えると楽しいですよ！

食べる時にも一工夫。これは札幌で私が大好きだったお店でおススメの食べ方ですが、食べる直前にご飯の上にレモン汁を振りかけます。また、スープにはナンプラーをお好みの量加えます。先にスプーンにご飯をすくい、スープに浸すようにしながら食べるのが地元流。

札幌ではスープカレー店は乱立状態で、お店も様々、食べる人の好みも様々なのでお気に入りを見つけるのは一苦労ですが、カレー好きの方には札幌での放浪の旅をお勧めします。

では、快くバトンを受け取って下さった、勉強家の西崎先生、お願いします！

次回紹介者は『青川整形外科病院の西崎香苗先生』です。よろしくお願いします。

Part6-2

甲府脳神経外科病院 上野 真 先生

こんにちは。日々寒くなり、世の中は新型インフルエンザが話題となっていますが、皆さんは風邪など引かず元気に仕事頑張っていますか？今回、後輩の種市先生からバトンをもらった甲府脳神経外科病院の上野です。

さて今回のお話は、先日家族で京都旅行をしてきたのですが、11月のこの時期は何と言っても紅葉が見頃で、日頃の疲れを癒すことが出来ました。紅葉はまだ完全ではなかったですが、綺麗な景色と京料理を満喫してきました。そんな中、今回の旅行で京都のタクシーに驚かされました。「関西方面のタクシーは運転が荒い」と身近の関西人から話を聞きましたが、実際は信号が赤でも余裕の通過!!前の車が赤信号で止まったら、追い越し通過と家族そろって目が点となってしまいました。少しでも迷って運転していると、クラクションの嵐・・・。

そんな驚くべきタクシー運転の中、貴重なタクシーを発見しました。それは・・・【四つ葉タクシー】皆さんは知っていますか？移動している四つ葉タクシーを見つけると『幸せになれる』？『恋愛成就』？みたいな噂があるのですが聞いたことありますか？大抵のタクシーは三つ葉なのですが、今回の旅行で初めて四つ葉タクシーを発見し、妻と二人恥じらいなく、はしゃいでしまいました。

今回一番気に入ったスポットは『大覚寺』です。このお寺は、必殺仕事人、暴れん坊将軍といった時代劇の撮影で利用されており、隣には大きな池があり、春は桜、夏は蓮、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々楽しめるお寺です。紅葉も丁度見頃で綺麗でした。皆さんも京都旅行の際には、是非大覚寺へ足を運んでみてはいかがでしょうか？



京都は何度行っても、和めるとても良い場所です。是非また行きたいと思います。先輩の小言・・・12月26日(夜)とんでもないライブが甲府で開催されます!!レゲエチャート1位のあのグループが・・・必見です!!

次回紹介者は『塩山市民病院の森脇正敏先生』です。よろしくお願いします。

原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えています。

テーマは自由です。ご投稿、お待ちしております。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

●次回 (No.125 3月上旬発行) 締め切りは、1月下旬です。

問い合わせ先 広報局 会報部 清水真治 (石和温泉病院 理学療法室内 TEL 055-263-0111)

E-mail sinji0012312@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。



変更手続きについて

平成21年度より、事務管理局が異動しました。

会員データの変更（異動・休会・復会・退会）には届出が必要となります。士会ホームページに各種届出用紙があります。郵送にて早急に手続きを行なって頂けますようお願い致します。

- 問い合わせ先：事務管理局 局長 齋藤／総務部 高石／財務部 佐藤
〒400-0831 甲府市上町 753-1
TEL：055-241-5811 FAX：055-241-8660
E-mail：yamanashi.pt.jimu@gmail.com(士会事務管理局専用アドレス)

編集後記

いつもご愛読いただきありがとうございます。今回も、盛り沢山の内容でお届けできることを嬉しく思います。supporters 冬号に快く協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

本誌に掲載されている“市民公開講座”へ参加しました。会場に到着してびっくり!! 老若男女問わず、たくさんの参加者が会場を埋めていました。まさに大盛況!! 今回の内容は“メタボリックシンドローム”についてです。やはり、世間でも関心の高い内容であることを実感しました。実技指導では、会場にいる全員でエアロビをしました。その迫力は、私の拙い文章では伝えられず・・・残念です。今年も残りわずかとなり、クリスマス会・忘年会・新年会と体調（体重?!）管理が重要な時期となりました。皆様のメタボ対策は万全ですか？

これからも、会員の皆様一人一人の声が聞こえてくるような会報誌にしていきたいと考えています。今後
も広報部の活動にご協力をお願いいたします。 (中込 恵美)



- 発行 ● 山梨県理学療法士会
- 代表 ● 谷村 英四郎
- 企画・校正 ● 清水 文彦 清水 真治 水上 卓 中込 恵美
- 編集・印刷 ● 有限会社 ナカガワ
- 会報部 ● 〒406-0023 山梨県笛吹市石和町八田 330-5
石和温泉病院 理学療法室内
Tel 055-263-0111(代) Fax 055-263-0260 E-mail sinji0012312@yahoo.co.jp